

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年12月26日

協議会名: 茂原市地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
小湊鐵道株式会社	市民バス「モバス」南部(鶴枝)コース 系統: 茂原駅～三ヶ谷神社～茂原駅(20.9km) 運行回数: 5便/日 南部(五郷)コース 系統: 茂原駅～石神集会所～茂原駅(12.1km) 運行回数: 4便/日 運賃: 200円(障害者手帳所持者、その介助者、運転経歴証明書所持者、小学生は100円)	・交通マップの配布について、利用者の気をひくような仕掛け、工夫に心がけていただきたいと評価結果を受け、引続き、「茂原市交通マップ」を市内の各公共施設や鉄道駅等に配布するとともに、商業施設に協力いただき、入口付近に配置することで、さらなる周知を図った。 ・収支を意識しながら、かつ公共性を保持していくかと評価結果を受け、運賃収入以外の収入源の確保から、市民バスの車体に有料広告の掲載を行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった。 目標: 利用者数100人/日以上 実績: 69.1人/日 分析: 新型コロナウイルスの影響を受けているものの、目標値には程遠く、利用者を増やすため利用者ニーズの把握に努めたい。	・運賃収入以外の収入源の確保のため、引き続き市民バスの車体等に、有料広告を募集し掲載を行う。 ・広報・自治会への回覧等を通じ、さらなる周知を図ると共に、意見交換会での現状、利用者ニーズの把握に努める。 ・市民バス及びデマンド交通共通の回数乗車券の周知に努め、公共交通の利用促進を図る。 ・転入者に交通マップの配布を行い、公共交通の周知を図る。
都自動車株式会社	デマンド交通「ふれあい」 運行区域: 市内北西エリア 運行日: 月・水・金曜(祝休日・年末年始運休) 運行本数: 8便/日(8時、9時、10時、11時、13時、14時、15時、16時) 運賃: 400円(障害者手帳所持者、その介助者、運転経歴証明書所持者、小学生は200円)	・引続き利用促進の取り組みを進めていただきたいと評価結果を受け、デマンド交通「ふれあい」全利用登録者世帯宛にPRを兼ね、乗降場所追加のお知らせ文を送付し周知を図った。 ・利用促進のため、デマンド交通「ふれあい」利用者の地区別割合や行き先等の分析をし、状況把握に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 目標: 利用登録者数750人以上 実績: 823人 分析: 周知が行き届き、順調に伸びている。 目標: 利用者数10人/日以上 実績: 14.2人/日 分析: 新型コロナウイルスの影響をあまり受けておらず、通院、買い物等の移動手段として利用されている。	・利用需要の高い高齢者を中心とした利用促進策を講じて、利用者の拡大に努める。 ・広報・自治会への回覧等を通じ、さらなる周知を図ると共に、意見交換会での現状、利用者ニーズの把握に努める。 ・市民バス及びデマンド交通共通の回数乗車券の周知に努め、公共交通の利用促進を図る。 ・転入者に交通マップの配布を行い、公共交通の周知を図る。
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	交通マップの配布や、乗降場所追加のお知らせなど利用者への周知活動について評価できるが、一部目標について未達成となった。引き続き利用促進の取り組みを進めていただきたい。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。 ・アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、利用促進に関するイベント等を実施できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。				

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月24日

協議会名: いすみ市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
小湊鐵道(株) いすみ循環-1	市役所大原庁舎～長者町駅～ いすみ医療センター～市役所 大原庁舎	チラシやウェブサイト等にバスの運行情報を掲載する等利用者の気を引くような仕掛け、工夫を心がけていただきたいとの評価結果を受け、バス交通運行時刻表を作成し、広報紙と一緒に配布、また高校生向けのバス利用についてのチラシを作成し高校にて配布した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	事業が計画に位置付けられた目標を達成した 目標: 25,000人 実績: 27,373人 分析: 通学利用の中学生の減少があったが、一般利用者の増加に加えて若年層(高校生の通学など)の利用促進を図るダイヤ改正等による効果と考えられる。
小湊鐵道(株) いすみ-2	市役所大原庁舎～長者町駅～ 房信夷隅町支店前		A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	
小湊鐵道(株) いすみ-3	市役所夷隅庁舎～下布施～市 役所大原庁舎		A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	
小湊鐵道(株) いすみ-4	長者町駅～市役所夷隅庁舎～ 市役所大原庁舎		A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	市内中学校からの要望を受けて、市内循環バスのダイヤ改正及び高校生利用料の改定などや、中学校や高校に市内循環バスの利便性について説明を実施した取り組みにより、目標を達成したことを評価する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。 ・アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、利用促進に関するイベント等を実施できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。
---------------------------------	---

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月28日

協議会名: 旭市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
千葉交通株式会社 干潟ルート(CC-4-1)	ひかた市民センター～東6区集会所～東1区集会所～旭中央病院	これまで、交通空白地域解消を目的とした一部ルート延伸や、JRにあわせた運行ダイヤ改正、安全を考慮した運行ルートの変更など、各種の見直しを行い、運行を維持してきた。これらにより、移動の円滑化も図られ、計画実施による効果が見られている。 運賃収入以外の収入源の確保のため、コミュニティバスの車体に有料広告の掲載を行っている。 車両内の新型コロナウイルス感染症対策をしつつ、引き続き総合公共交通マップを発行し、市内各戸、各公共施設に配布、市HPで周知を行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C 事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった。 目標 利用者数 7人/平日1便 3.5人/休日1便 実績 利用者数2.8人/平日1便 1.8人/休日1便 新型コロナウイルスによる外出自粛の影響を大きく受けて、利用者が減少している。	引き続き運賃収入以外の収入源の確保のため、コミュニティバスの車体に有料広告を募集し掲載を行う。 車両内の新型コロナウイルス感染症対策を継続しつつ、引き続き総合公共交通マップを発行し、市内各戸配布等を行い、運行内容の周知を行い利用者の回復を図る。 令和4年度に作成する地域公共交通計画に基づいた改善等を行っていく。
千葉交通株式会社 干潟ルート(CC-4-2)	干潟駅～湯木坂上～東1区集会所～旭中央病院				
千葉交通株式会社 干潟ルート(CC-4-3)	干潟駅～湯木坂上～ひかた市民センター				
千葉交通株式会社 干潟ルート(CC-4-4)	ひかた市民センター～湯木坂上～干潟駅				
有限会社丸運タクシー 旭市デマンド交通	旭南地区	令和4年4月に「生涯活躍のまち・みらいあさひ」のまちびらきに伴い、共通乗降場所の設置を行った。 車両内の新型コロナウイルス感染症対策をしつつ、市役所関係部署と連携し、周知を行った。 総合公共交通マップを発行し、市内各戸、各公共施設に配布、市HPで周知を行った。また、定期的に乗降対象施設の見直しを行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C 事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった。 目標 収支率 18.7% 実績 収支率 11.8% (旭南 12.8%) (干潟・旭北 11.4%) (海上・飯岡 11.2%) 主に新型コロナウイルスによる外出自粛の影響を受けているが、利用登録者数は順調に増えており、収支率の低い地区も徐々に収支率が上昇している。	車両内の新型コロナウイルス感染症対策を継続しつつ、利用登録者の増加に向けて、引き続き総合公共交通マップを発行し、市内各戸配布等を行い周知を行う。また、市役所関係部署で連携し、利用者となる高齢者等に周知を行っている。 定期的に乗降対象施設の見直しを行い、利便性の向上に努めている。 令和4年度に作成する地域公共交通計画に基づいた改善等を行っていく。
旭タクシー株式会社 旭市デマンド交通	干潟・旭北地区				
アステル交通株式会社 旭市デマンド交通	海上・飯岡地区				
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	デマンド交通の乗降場所の設置や、公共交通マップの発行・配布等の取組は評価できるが、利用者数、収支率の目標は未達成となった。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考として頂きたい。 ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。 ・アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、利用促進に関するイベント等を実施できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。				

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年12月16日

協議会名: 山武市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
ちばフラワーバス(株)	山武市基幹バス 系統:さんぶの森元気館 ～蓮沼海浜公園 (往路33.8km 復路33.8km) 平日7便 土日祝日6便	前回の評価結果を踏まえ課題と課題を解決するための実施事業を検討し、平成31年3月20日に策定した「山武市地域公共交通網形成計画」の進行管理に反映させた。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 目標① 公共交通網の満足度を45.0%以上に向上させる。 【満足度】46.1% 【目標を達成できた要因】 基幹バス・乗合タクシーの認知と利用が市民に浸透してきたと推察されるため。 目標② 基幹バスの1日当たり利用者数を134人以上に増加させる。 【利用者数】 112.1人/日 目標③ 乗合タクシーの1日当たり利用者数を131人以上に増加させる。 【利用者数】 104.5人/日 【目標を達成できなかった要因】 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の発令に伴い1日平均利用者が減少し、発令以前の程度まで回復できないため。	改善検討① 【基幹バス】 ・新たな利用者を確保するため、利用者ニーズの把握に努め、運行計画に反映させる。 【乗合タクシー】 ・市内を3地域に分け、それぞれの地域内を運行しているが、利用者ニーズを反映した地域外運行の拡充を検討する。 ・運行効率の向上を図るため、同一の発着地への相乗りを促進する。相乗りの促進にあたっては相乗り割引の導入について検討する。 改善検討② ・市内の公共交通情報のオープンデータ化を実施し、各交通モードの一体的な利用促進を図る。 ・各事業者と連携し、地域間幹線系統への接続改善等、市内の各交通モード間の連携を強化する。
房総自動車(有)	山武市乗合タクシー (成東、山武、蓮沼・松尾)	前回の評価結果を踏まえ課題と課題を解決するための実施事業を検討し、平成31年3月20日に策定した「山武市地域公共交通網形成計画」の進行管理に反映させた。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。		
両総観光(株)	山武市乗合タクシー (成東、山武、蓮沼・松尾)	前回の評価結果を踏まえ課題と課題を解決するための実施事業を検討し、平成31年3月20日に策定した「山武市地域公共交通網形成計画」の進行管理に反映させた。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。		
(有)松尾タクシー	山武市乗合タクシー (成東、山武、蓮沼・松尾)	前回の評価結果を踏まえ課題と課題を解決するための実施事業を検討し、平成31年3月20日に策定した「山武市地域公共交通網形成計画」の進行管理に反映させた。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。		

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>新たな割引制度を開始したことや、基幹バスの全車に非接触型ICカード決済対応機器を設置するなどの、利便性向上の取組は評価できるが、一部の目標は未達成となった。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。 ・アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。
-------------------------	---

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 5年 1月27日

協議会名: 香取市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
千葉交通株式会社	小見川循環バス ●系統:小見川駅~高萩~小見川駅(30.8km) 運行回数:4回/日 ●系統:小見川駅~小見川高校~小見川駅(5.1km) 運行回数:4回/日 ●系統:工業団地~小見川駅(23.2km) 運行回数:1回/日 ●系統運賃: 大人300円、中高生100円、小学生以下無料 障害者手帳所持者(大人)100円 障害者手帳所持者(中高生)無料	公共交通ガイドマップを作成し、利用者の目的地となる学校での配布、公共施設や商業施設への配架、並びに市HPへの掲載を通して利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたい点があった。車両故障による運休が発生した	B 事業が計画に位置付けられた目標は一部達成、一部未達成であった。 目標①:利用者数12,000人 実績①:利用者数12,728人 分析①:通学者の利用増加が要因である。 目標②:収支率16.9%以上 実績②:収支率14.0% 分析②:運賃収入には車内回数券販売額を含めている。利便増進のため、運賃収入に含めない車外販売チャネルを増やしたことによる収入の伸び悩みが要因と考えられる。	通学以外の利用者を取り込むため、買い物等目的利用者層をターゲットに、地元商店と連携した購入額割引措置等の利用促進策を検討する。
京成タクシー成田株式会社	小見川乗合タクシー 営業区域: 小見川中央小学校・小見川東小学校の通学区域地区(利根川以北を除く) 運行日:月曜~金曜 運行時間帯:第1便8時~第9便16時 運賃:大人600円、中高生300円、小学生以下無料 障害者手帳保持者300円 障害者介助者300円	乗合タクシー利用ボリューム層の高齢者層の立ち寄り先を中心に乗合タクシー制度の周知を実施し、制度普及を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 目標①:利用者数6,400人 実績①:利用者数6,777人 分析①:制度周知を重視した結果、一定程度の効果が表れたと考えられる。 目標②:収支率16.4%以上 実績②:収支率20.0% 分析②:利用者数の増加及び令和3年の運賃改定による収入増が要因である。	便当たり平均乗合人数が2人未満であるため、運行便数の最適化等を引き続き検討する。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	公共交通マップを作成し目的地での配布や、市のHPで利用促進を図る取組は評価できるが、小見川循環バスの収支率の目標は未達成となった。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。 ・アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、利用促進に関するイベント等を実施できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。
-------------------------	---

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月13日

協議会名: 市原市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
小湊鉄道(株)	<p>①鶴舞バスターミナル～湯原～里見駅(10km) 運行回数:2.5回/日 運賃:390円</p> <p>②鶴舞バスターミナル～久保～里見駅(12km) 運行回数:2.5回/日 運賃:390円</p> <p>③鶴舞バスターミナル～高滝駅～里見駅(8km) 運行回数0.5回/日 運賃:390円</p>	今年度においても、計画どおり事業を実施するとともに、小中一貫教育校の通学に対応した運行ダイヤ・運行ルート改善検討等を適宜行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 加茂学園の児童生徒の通学手段の確保に寄与した。 コロナ流行前の直近の実績(R元年度)は、51.04人であったが、コロナ禍による影響を受けて近年の利用者数は低迷した状況が続いていた。こうした状況を踏まえ、本計画の目標値は直近の実績値の維持とし、「1日の平均利用者26.55人」と設定。 当該年度の実績は、コロナウイルス感染症拡大に伴う行動制限が緩和されたことや学校の休校が実施されなかったため、「1日平均利用者38.27人」であった。	本バス路線のルート及びダイヤについて、適宜関係者と協議し、運行内容の改善及び利用促進を図っていく。
小湊タクシー(株)	<p>デマンド型交通「戸田地区」 営業区域:戸田地区 運行日:月・水・木曜 運賃:500円</p> <p>デマンド型交通「養老地区」 営業区域:養老地区 運行日:火・金曜 運賃:520円</p>	各世帯にリーフレットを配布し利用促進を図るとともに、利用者ニーズの把握につとめ、戸田地区においては運行区域の拡大を行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 交通空白地域である3地区において、デマンド型乗合タクシーの運行を維持することにより、高齢化社会における交通弱者等の生活交通の確保を図った。 戸田地区は目標「1運行あたりの平均乗車人数 1.21人/回」に対して、「1.15人/回」であった。 養老地区は目標「1運行あたりの平均乗車人数 1.57人/回」に対して「1.25人/回」であった。 市津地区は目標「1運行あたりの平均乗車人数 1.29人/回」に対して、「1.30人/回」であった。	地域住民や交通事業者の参画のもと定期的に運営会議を開催し、運行状況や運行上の課題等を検証し、運行内容の改善及び利用促進を図っていく。
(有)潤井戸タクシー	デマンド型交通「市津地区」 営業区域:市津地区 運行日:月～金 運賃:500円～1,500円	利用者ニーズの把握につとめ、運行曜日、運行ダイヤの見直しを実施した。			
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	利用者ニーズを把握し、運行ダイヤや運行ルート等を見直したことで、一部を除いて目標を達成されたことを評価する。 また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。 ・アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。				

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年12月19日

協議会名: 君津市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大新東株式会社 君津営業所	君津市デマンドタクシー予約便(小櫃・上総地区)	・75歳以上の高齢者の外出を支援するため、デマンドタクシーも利用できる公共交通の共通利用券を交付するとともに、公共交通機関や観光施設にリーフレットを配布するなど、デマンドタクシーの利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 ※計画には未掲載だが、デマンドタクシー利用者アンケートの実施を予定している。	【目標】 利用者数:20,000人 収支率:25.0% 【実績】 利用者数:9,800人 収支率:7.2% ※共通利用券を通常の運賃収入として換算した場合の収支率は7.3%	・新型コロナウイルスワクチン接種会場までの交通機関の利用に係る費用を支援するなど、デマンドタクシーの利用促進を図る。 ・利用者ニーズや運行状況を把握し、運行効率の向上に努める。
	君津市デマンドタクシー定時便※遠距離通学者のスクール利用含む。(亀山地区)	・デマンドタクシー利用者アンケートの実施に向け、準備するとともに、デマンドタクシー定時便の利用者の意見を聴取した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 ※計画には未掲載だが、デマンドタクシー定時便の利用者の意見を聴取した。	C 【分析】 ・新型コロナウイルス感染症の影響から、公共交通の利用を控える傾向があった。 ・公共交通の安全性を周知し、共通利用券の交付により利用促進を図ったが、目標には届かなかった。	・新型コロナウイルスワクチン接種会場までの交通機関の利用に係る費用を支援するなど、デマンドタクシーの利用促進を図る。 ・利用者ニーズや運行状況を踏まえ、運行効率の向上に努める。
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	公共交通の利用促進の取組や利用者ニーズの把握に努めている点は評価できるが、利用者数及び収支率の目標は昨年に引き続き未達成となった。新型コロナウイルス感染症の影響により目標達成に至らなかったが、引き続き利用促進及び利用者ニーズを把握した運行効率の向上を進めて頂きたい。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。 ・アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。				

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年11月15日

協議会名: 印西市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
ちばレインボーバス株式会社	コミュニティバス(ふれあいバス) 印旛・本埜支所ルート 系統:印旛支所～竜腹寺～本埜支所～印西牧の原駅～本埜支所～竜腹寺～印旛支所(31.8km) 運行回数:7便/日 運賃:大人(中学生以上)100円 ※小学生・乳幼児・障害者手帳保持者及び介助者1人まで無料	前回の事業評価では、目標値である利用者数80人/日が達成されなかった。目標利用者数を下回った要因としては、認知度、令和元年度のルート延伸に伴う減便、新型コロナウイルス感染症の影響等が考えられる。今後、様々な利用促進策を検討、実施し、利用者の確保を図る。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。 目標:一便あたりの平均利用者数13人 令和3年3月に策定した印西市地域公共交通計画に記載されている目標値「13.0人/便」をもとに設定した。 結果:一便あたりの平均利用者数8.3人 分析:1日当たり利用者数については、前年度と比較すると7.4人/1便から8.3人/1便と、約10%の増加となっているものの、新型コロナウイルス感染症拡大前である令和元年度の10.4人と比較すると、20%の減少となっており、交通不便地域の荒野、竜腹寺地区の利用者も、前年比で16%減となっている。しかし、令和元年10月に新設した本埜支所停留所の利用状況を見ると、利用者数が20%増となっており、周辺地域の利用が喚起されていると考えられる。	・目標利用者数を下回った要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響等が考えられる。今後、新型コロナウイルス感染症の予防策を講じながら、様々な利用促進策を検討、実施し、利用者の確保を図る必要がある。 ・特に交通不便地域の荒野、竜腹寺地区や、本埜支所からの利用者(東ルート、六合路線、スワン号との相互乗換利用者)を増加させ、少しでも路線の採算性を上げ、持続可能な路線となるよう、努める必要がある。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>昨年度比では改善が見られるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により目標達成には至らなかった。引き続き、認知度向上や乗り継ぎ抵抗の解消など、利用増に繋がる施策を検討していただきたい。</p> <p>また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業者と自治体との間に対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。 ・アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。
-------------------------	--

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月31日

協議会名: 東金市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
東金タクシー有限会社 南総タクシー株式会社 小川タクシー有限会社 仲田タクシー有限会社	デマンド交通(東金市乗合タクシー)市内全域	○利用キャンセルをしない常習者に適宜電話にて口頭注意を実施した。 ○利用者が希望する時間に予約が取れなくても、別の時間帯を提案することで、利用に繋げる取組みを実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 【目標数値】 1日当たり利用者数 45人 (前回目標 45人) 【結果】 1日当たりの利用者数 33.07人 (前回実績35.33人)	新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりデマンド交通自体の需要が一時的に低下している。需要が回復した際に効率的な運行が可能になるよう予約キャンセル常習者への口頭注意等を随時実施し、予約不成立件数の削減に努めていく。
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	希望時間に予約が取れない場合に別の時間帯を提案するなど効率的な運行を目指す取組や、「運転免許自主返納者」運賃を設定し高齢者の免許返納を促進する取組は評価できるが、利用者数の目標は未達成となった。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。				

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月13日

協議会名: 勝浦市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
小湊鉄道株式会社	勝浦市予約制乗合タクシー(上野地区、大沢地区、浜行川地区、興津地区の一部、小松野地区、大楠地区及び松部・串浜地区の一部)	<p>○市広報誌に予約制乗合タクシーのご案内記事を掲載し、周知及び利用促進を図った。</p> <p>○運行事業者にアルコール消毒液を配布し、車両や運転手の消毒や換気を徹底するなど感染症対策を実施し利用者の安全・安心を確保した。</p> <p>○令和4年10月からの運行区域拡大(興津地区の一部)を実施し、利用促進を図った。</p> <p>○地域公共交通計画の策定に向けた市民アンケートや地区懇談会等を実施し、利用者ニーズの把握に努めた。</p>	A 事業は計画どおり適切に実施された	C <p>【目標】 利用者数 5,880人 (1日当たり 20人/日)</p> <p>【実績】 利用者数 3,482人 (1日当たり 11.8/日)</p> <p>【目標不達成要因】 新型コロナウイルス感染症が感染拡大と縮小を繰り返すなかで、外出控えなどにより公共交通全体の利用が減少したものと考えられる。</p>	<p>○市広報誌に予約制乗合タクシーのご案内記事を掲載し、周知及び利用促進を図る。</p> <p>○令和4年度末策定予定の地域公共交通計画に基づき、予約制乗合タクシーの利便性向上を図る。</p> <p>○コロナ禍においては、車両や運転手の消毒や換気を徹底するなど感染症対策を実施し利用者の安全・安心を確保する。</p>
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>周知および利用促進や利用者ニーズの把握などの取組は評価できるが、利用者数の目標は未達成となった。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。 				

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月26日

協議会名: 大網白里市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
千葉中央バス(株)	増穂地区コミュニティバス 系統: 中部コミュニティセンター ～中部コミュニティセンター (24.3km) 運行回数: 8回/日 運賃: 200円	持続可能な地域公共交通を 目指すうえで、財政や人的資源 などの制約がある中で、い かに収支を意識しながら、かつ 公共性を保持していくかがポイ ントとの指摘を受けた。そのた め、運賃収入以外の財源確保 を目的としてコミュニティバスへ の有料広告掲載を開始した。	A 事業が計画に位置付けら れたとおり適切に実施され た。	A 事業が計画に位置付けら れた目標を達成した。 【目標】 1便平均 7.5人 1日平均 60人 年間 21,900人 【実績】 1便平均 8.2人 1日平均 65人 年間 24,006人 分析: 新型コロナウイルス 感染症による行動制限が 解除され、日常における外 出の頻度が増加したこと や、ICカードによる運賃支 払いを導入したことに伴う 利便性の向上が要因と考え られる。	コミュニティバスの運行が継 続されることは、地域にとって 有効な活性化施策になるという 理解の浸透を図るとともに、地 域住民が当事者意識を持ち、 地域で公共交通を維持してい くという意識をもっていただけ るよう、利用促進策や情報提供 の仕組みを検討していく必要が ある。さらには、住民の移動 ニーズ等を把握し、利便性向 上を図っていく。
秋葉タクシー(有)	白里地区コミュニティバス 系統: 白里公民館～大網白里 市役所(23.4km) 運行回数: 5回/日 運賃: 500円(白里地区内及び 大網市街地内での移動は250 円)	持続可能な地域公共交通を 目指すうえで、財政や人的資源 などの制約がある中で、い かに収支を意識しながら、かつ 公共性を保持していくかがポイ ントとの指摘を受けた。そのた め、運賃収入以外の財源確保 を目的としてコミュニティバスへ の有料広告掲載を開始した。	A 事業が計画に位置付けら れたとおり適切に実施され た。	C 事業が計画に位置付けら れた目標を達成出来なかつ た。 【目標】 1便平均 3人 1日平均 15人 年間 3,645人 【実績】 1便平均 2.1人 1日平均 10人 年間 2,613人 分析: 令和3年10月の運行 計画変更により利用者増を 図ったが、バスが乗り入れ る予定であったスーパーの 閉店や、運行ダイヤの変更 により、特別な事情のある 児童(1名)の利用がなく なったことが要因と考えら れる。	コミュニティバスの運行が継 続されることは、地域にとって 有効な活性化施策になるという 理解の浸透を図るとともに、地 域住民が当事者意識を持ち、 地域で公共交通を維持してい くという意識をもっていただけ るよう、利用促進策や情報提供 の仕組みを検討していく必要が ある。さらには、住民の移動 ニーズ等を把握し、利便性向 上を図っていく。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	コミュニティバスへの有料広告掲載による運賃収入以外の財源確保などの取組は評価できるが、一部の路線において乗車人員の目標は未達成となった。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・事業者と自治体との間に対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。				

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 長南町地域公共交通活性化協議会

令和4年11月18日

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

令和4年計画(令和3年10月1日～令和4年9月30日)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(有)長南タクシー	長南町全域でドア・ツー・ドア方式	前年度の評価結果を踏まえ、事業を実施している。	A	計画に位置付けられた事業は適切に実施された	A	計画年4,131回の運行に対し、5,194回運行し、延べ5,532人の交通手段の確保が出来た。 新型コロナウイルスの影響により乗り合いでの利用が厳しい状況であったが、今後はコロナ禍での乗合率向上を目指す。
ゆたか自動車(株)	長南町全域でドア・ツー・ドア方式	前年度の評価結果を踏まえ、事業を実施している。	A	計画に位置付けられた事業は適切に実施された	B	計画年4,131回の運行に対し、4,109回運行し、延べ4,381人の交通手段の確保が出来た。 新型コロナウイルスの影響により乗り合いでの利用が厳しい状況であったが、今後はコロナ禍での乗合率向上を目指す。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>前年度に引き続き、消毒、検温等による感染防止対策の徹底や、利用方法に関して簡潔にまとめた案内プレートを利用登録者へ作成・送付、ペア割引の実施など公共交通の利用促進に取り組み、利用者数の目標を達成されたことを評価できるが、運行回数に関しては未達成となった。今後は、運行回数ではなく乗合率について目標設定することを検討していただくとともに、効率的な運行を目指していただきたい。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 事業者と自治体との間に対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 ➢ 「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。 ➢ アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。
-------------------------	--

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月27日

協議会名: 御宿町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
小湊鉄道株式会社	町内全域をカバーする乗合運行(デマンド型)を地域内フィーダー系統確保維持事業として、平成26年10月1日から実施。ルートを定めず、運行エリア内を乗合で移動するもので、事前予約型・町内全域乗合タクシーとして運行している。	乗合運行(デマンド型)及びお出かけ支援事業について、利用を促進するため、広報で事業の周知を行った。	A (事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された)	C (事業が計画に位置づけられた目標を達成できなかった) ※目標利用者5,385人に対し実績4,791人(▲594人) ※目標収入1,631,400円に対し実績1,359,000円(▲272,400円)	・引き続き利用状況の統計を蓄積して不満やニーズを探り、利用満足度の高いサービスを実施していく。 ・リピーターが多いため、ライフサイクルが合致する方にとっては満足していただけていると思う。しかし、登録している方のうちよく利用する方は少なく、移動を困難と感じている方はもっと潜在すると思われるため、制度周知を重ねて実施していくことに加え、移動先別の移動モデルの提示を行うなどのアプローチを検討していく。

<p>地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)</p>	<p>利用促進のため、広報における乗合運行に関する事業周知の取組は評価できるが、利用者数及び収入に関する目標は未達成となった。引き続き利用促進の取組を進めていただきたい。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 >事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 >「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。 >アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。</p>
--------------------------------	---

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年11月24日

協議会名: 横芝光町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
有限会社横芝タクシー	運行系統名:横芝光町デマンド(乗合)タクシー 運行区域:町内全域 運行日:月曜日～土曜日(祝日・年末年始を除く) 運行時間:7時～18時 運賃:大人300円 小人150円	【前回の評価結果】 満足度の目標を達成した点は評価できるが、利用者数の目標は未達成となった。新型コロナウイルス感染症の影響により目標達成には至らなかったが、新たに作成される地域公共交通計画に基づき、地域の実情に即した交通サービスの提供を進めていただきたい。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。利用者からの意見や利用状況を踏まえ、必要に応じ改善を図り、来年度以降も継続する。	B 【利用者数】 目標である循環バス・乗合タクシー利用者数3,000人/月に対し、令和4年度(令和3年10月～令和4年9月)の利用状況は、新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛などの影響を受け、月平均利用者数は2,767人/月と目標値を下回ることとなった。しかしながら、前年度と比較すると230人/月増加した。 【公共交通に関する満足度】 満足度40%以上を目標と設定しており、循環バス及びデマンド(乗合)タクシー利用者アンケートにおける満足度について、それぞれ「満足」「やや満足」との回答は、循環バスが41.2%、デマンド(乗合)タクシーが69.4%であり、平均は55.3%となるため、目標値を達成している。	令和4年3月策定の地域公共交通計画に基づき、令和4年12月から大きな再編を行う。循環バスについては、利用者数が少なかった北側ルートを廃止し、デマンド交通(乗合タクシー)へ転換する。南側ルートは、通勤・通学の鉄道への乗継を考慮したダイヤにするとともに、交通系ICカードの利用を開始し、また利用者数が少なかった一部ルートを廃止することで効率化を図り、増便を行う。それぞれの利用者数を増やし、収支率の改善を図っていく。
房総自動車有限会社		【反映状況】 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、利用者数が低迷しているが、実績値を基に循環バス・乗合タクシーの利用者数は据え置きとする。また、令和4年3月策定の地域公共交通計画により令和4年12月から大きな再編を行う。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。利用者からの意見や利用状況を踏まえ、必要に応じ改善を図り、来年度以降も継続する。		
両総観光株式会社		A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。利用者からの意見や利用状況を踏まえ、必要に応じ改善を図り、来年度以降も継続する。			

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	満足度の目標を達成した点は評価できるが、利用者数の目標は未達成となった。前年度よりも利用者数は増加していることから、より一層の地域の実情に即した交通サービスの提供を進めていただきたい。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ➤「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。 ➤アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。
-------------------------	---

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月12日

協議会名: 鴨川市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
日東交通株式会社	1. 北ルート 金山ダム～鴨川駅西口～鯛の浦～内浦山県民の森 2. 北ルート 金山ダム～鴨川市役所～鴨川駅西口 3. 南ルート 曾呂終点～畑青年館～鴨川駅西口～浦の脇～鴨川駅前 4. 南ルート 曾呂終点～畑青年館～鴨川駅西口 5. 南ルート 浦の脇～東条病院～鴨川駅前 6. 清澄ルート 奥清澄～清澄寺～天津小湊支所	計画に定めた目標の達成を目指し、コミュニティバス各ルートのパンフレットの配布等、各種利用促進策に取り組んだほか、運行事業者から停留所・便ごとの利用状況の定期報告を受け、その把握・分析に努めた。 モビリティ・マネジメントの一環として実施予定であった公共交通の乗り方教室については、開催予定の小学校と協議した結果、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、見送ることとした。 また、令和4年3月に策定した地域公共交通計画に基づき、再編の検討を行った。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	利用目標 42,572人/年に対し、実績では25,558人/年であった。 内訳は、以下のとおり。 1. 北ルート 実績 11,771人/年 (対前年比 100.0%) 2. 北ルート 実績 860人/年 (対前年比 117.0%) 3. 南ルート 実績 8,042人/年 (対前年比 102.6%) 4. 南ルート 実績 1,908人/年 (対前年比 128.0%) 5. 南ルート 実績 391人/年 (対前年比 77.0%) 6. 清澄ルート 実績 2,586人/年 (対前年比 94.2%) (理由等) 沿線住民の人口減少、特に市内小・中学校の生徒・児童数の減少等による恒常的な利用者が減少したことに加え、新型コロナウイルス感染症の影響などが大きな要因となり、目標に届かない結果となった。	より一層の利用促進を図るため、地域公共交通計画に定める各種事業に取り組んでいく。特に、公共交通の利用に向けた意識啓発の一環として実施する公共交通乗り方教室については、プログラム内容の改善・拡充を検討する。 なお、これらの取組は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ実施する。 また、引き続き、地域公共交通計画に基づき、民間路線バスも含めた路線の再編や運行方法の見直し等の検討を進める。

地方運輸局等における
二次評価結果
(関東運輸局)

運転免許証自主返納者に対する「ノーカー・サポート優待証」制度の推進などの利用促進の取組は評価出来るが、利用目標は未達成となった。
 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。
 >「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。
 >アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年12月26日

協議会名: 八街市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
千葉交通株式会社	<p>コミュニティバス「ふれあいバス」 系統: 市街地循環コース(13.9km) 北コース(30.9km) 旧北コース(28.7km) 東コース(26.7km) ※系統kmはコースにおける最小値</p> <p>運行回数: 12回/日(市街地) 9回/日(北) 7回/日(旧北) 7回/日(東)</p> <p>運賃:200円</p> <p>※旧北・東コースについては令和3年10月の再編により終了</p>	<p>利用者向けマップや時刻表については、お店(目的地)で掲示するまたは配付するなど、利用者の気を引くような仕掛け、工夫に心がけていただきたいとの評価結果を受け、大規模商業施設での公共交通マップの設置を実施した。</p>	A	<p>計画通り事業は適切に実施された</p>	<p>指標①ふれあいバス年間利用者数を86,000人 実績:80,980人 前年度年間利用者数と比較し7,259人の増加であったが目標値に至らなかった。新型コロナウイルスの影響により、利用者が減少したことが一因と推測される。</p>	<p>令和3年10月に実施したふれあいバスの運行ルート及びダイヤの見直しにより新たに設置した商業施設等への利用者数も多く、目標値には達しなかったものの、年間利用者数の増加に繋がった。令和5年10月よりデマンド交通の実証運行を予定しているため、引き続き乗降調査等を実施し、利用状況の分析を行い、正確なニーズ把握を行うことで利用促進を図りたい。</p>
ちばフラワーバス株式会社	<p>コミュニティバス「ふれあいバス」 系統: 西コース(40.9km) 南コース(32.3km) ※系統kmはコースにおける最小値</p> <p>運行回数: 8回/日(西) 9回/日(南)</p> <p>運賃:200円</p> <p>※南コースについては、補助対象外であるが、包括的な目標設定をしているため、ふれあいバス全体としての評価を記載しています。</p>			<p>指標②公共交通に係る市の年間財政負担額を52,201千円 実績:54,090千円 新型コロナウイルス感染症の影響により、運行継続が困難となった民間バス路線である「八街循環線」へ4,000千円の補助を実施したことにより増となった。</p>		
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>前年度の評価結果を受けた上での大規模商業施設での公共交通マップの設置や、市内小学校の児童を対象に実施している「バスの乗り方・交通バリアフリー教室」などの取組は評価できるが、ふれあいバスの年間利用者数については前年度より増加したものの、目標は未達成となった。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <p>➢ 事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。</p> <p>➢ 「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。</p> <p>➢ アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。</p>					

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年12月21日

協議会名: 富津市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
NPO法人わだち	竹岡地区交通空白地有償運送	利用者向けアンケート調査の結果を基に実施した令和3年度10月のダイヤ改正により、多くの利用者のニーズに対応することができるようになった。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 計画に位置付けられた目標を達成することができた。(利用者数の目標値700人に対し実績800人となり、1運行あたりの利用者数は2.84人であった。また、昨年度と比べ利用者数が1.5倍に増えていることから、A評価とした。)	今後も利用者動向に注視しつつ、事業者とともに必要な見直しを検討する。また、地域の医療・商業施設と連携し、より利便性の高い運行方法を検討する。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	利用者向けアンケート調査の結果を基に実施した令和3年度10月のダイヤ改正に取り組み、利用者数の目標を達成されたことを評価する。また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 >「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。 >アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。
-------------------------	---

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月31日

協議会名: 木更津市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
富来田地区まちづくり協議会	ふくちゃんバス (区域運行:富来田地区)	<p>・利用促進を進めていただいたとの評価結果を受け、実施主体が区内各区へ回覧を行ったり、利用者による地域住民への口コミ等により、利用登録者を22名増やすことができた。</p> <p>・収支を意識しながら、サステナビリティを確保されたいとの評価結果を受け、効率的な運行を図るために、乗合運行を実施するよう努めた結果、1便当たりの輸送人数が0.1人/便増え、1.35人/便となった。</p> <p>・目的達成のための施策を多角的に検討すべきとの評価結果を受け、通院利用が大きな割合を占めていることから、運転手が病院内まで付き添う等の取り組みを行うとともに、利用者の通院の都合に合わせて臨時運行を行った。</p>	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B <p>【目標】</p> <p>①利用者について、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延べ10人/日 ・延べ80人/月 <p>②令和3年度実績(34.2%)と比較して、収支率1%改善。</p> <p>【実績】</p> <p>①利用者について、</p> <p>【令和4年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延べ 5.1人/日 ・延べ44.7人/月 <p>【令和3年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延べ 5.1人/日 ・延べ38.0人/月 <p>②収支率 36.2% → 1.06%増</p> <p>【分析】</p> <p>①利用者数については、新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛などにより、目標を達成することはできなかったが、令和3年度の実績は上回ることができた。</p> <p>②効率的な運行を図るために、乗合運行を実施するよう努めた結果、目標どおり収支率を改善することができた。</p>	<p>・利便性及び収益の向上を図るために、区内にスーパーが開業したことに伴う利用者の需要の変化に合わせて目的地の見直しを行う必要がある。</p> <p>・収支率の改善のため新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえながら、今後も乗合運行の実施に努め、効率化を図る必要がある。</p>

地方運輸局等における
二次評価結果
(関東運輸局)

前年度の評価結果を受けて、利用登録者の増加や随時運行などの取組は評価できるが、利用者数の目標は未達成となった。引き続き、地域での周知活動を行うなど公共交通の利用促進を進めていただきたい。また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の施策検討の参考としていただきたい。

➢事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。

➢「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。

➢アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。